

特集

現場で取り組む調査研究のコツ

いまこそ現場で調査・研究を始めよう 事例に学ぶ前に押さえておきたいポイント ————— 尾島俊之

事例でわかる！根拠と評価が示せる調査研究のコツ

①自分の地域の特徴を明らかにしたいときの調査研究

塩谷町健康増進地方計画策定のための生活習慣に関する調査 ————— 柿沼澄子

②事業の効果があるかどうかを明らかにしたいときの調査研究

虐待予防教室の事業評価 ————— 田中容美

③保健サービスなどの需要量を予測したいときの調査研究

高齢者虐待防止ネットワークの立ち上げへ向けた調査 ————— 大光房枝

あなたのまちで調査・研究をするために ————— 杉山真澄

編集後記

●今月の特集は臨地実習です。ここ数年、保健師教育を巡り、喧々譁々の議論が巻き起こっています。弊誌としても避けられないテーマですが、正直、取り上げるには少しの勇気がいりました。ご存知の通り、基礎教育制度を巡っては複数の組織が各々の見解を表明しています。当然、メディアの立場として、偏重報道することはできず、第三者としての誌面作りが求められるわけです。

しかし、今回、特集を作る過程で確信したのは、現場の保健師も大学の教員も、「このままではだめだ」という共通認識を持っていることです。市町村合併や分担配置によるマンパワー不足、見学中心の実習内容、学生のモチベーションの低下など、課題は山積みです。

「上乘せ」教育の是非など、現場と教員の間では活発な議論が起きている。しかし、議論だけで終わるのではなく、専門職として1つの方向性をはっきりと示す時期に来ているのではないのでしょうか。臨地実習の充実、そのまま保健師の専門性へ結びつくことでもあります。各々の立場を越え、保健師という長年にわたり地域の健康に寄与してきた、世界に誇れる専門職能集団としての結束力を見たいと切に願います。(和田)

●米国脳卒中協会国際脳卒中会議 2008 で、家で猫を飼った経験がある人は心臓発作による死亡リスクが30%も低下するという発表があったそうです。1976～1980年のアメリカ国民健康栄養調査に参加した30～75歳のアメリカ人4435人を、10年間追跡調査した結果わかったというもの。猫好きの私にとっては、「やっぱり!」という結果です。もちろん、この調査・発表をした Qureshi 博士も「ニンジャ」という名前の猫を飼っているそうです。

調査や統計をすると、「えっこんなことが?」という新事実が発見されるだけでなく、前から漠然と感じていた事柄の裏付けが取れて目に見える形で示される、ということもありますよね。次号の特集では、そんな「保健師の直感」を形にして見せるための、現場で調査研究に取り組むときのコツをご紹介します。

ところで先程の調査で犬はどうだったかという、愛犬家のみなさん、ご安心を。Qureshi 博士によると、おそらく犬を飼うことも同様の効果をもたらすはずということです。ただ今回の調査では、対象者のなかで犬を飼っている人が少なかったため、統計的に有意な結果が得られなかったそうです。(栗原)

保健師ジャーナル 第64巻5号 2008年5月10日発行(毎月1回10日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2008, Printed in Japan

1部定価1,365円(本体1,300円+税5%) 2008年々々めり購読料15,000円(税込、送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院 代表者 金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部(03)3817-5657 社内案内(03)3817-5600

保健師ジャーナル編集室(03)3817-5774 電子メールアドレス hokenshi@igaku-shoin.co.jp 担当/和田・栗原・安部

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS (株)日本著作出版権管理システム委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話03-3817-5670、FAX03-3815-8199)の承諾を得てください。1348-8333/08/¥250/論文/JCLSが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複写につき250円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCLS宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。